

# ROAD TO 2019

## 世界の戦いが静岡で

～ラグビーワールドカップ2019日本大会に向けて～



静岡県ラグビーフットボール協会名誉会長

まつ い じゅん  
**松井 純氏**

1934年生まれ。京都大学法学部卒。73年静岡新聞社・静岡放送に入社し、東京支店長、販売局長などを経て2012年会長就任。06年から現職を兼務。京都府出身。



静岡県知事

かわ かつ へい た  
**川勝 平太**

1948年生まれ。早稲田大第一政治経済学部卒。同大学院経済学研究科修士課程修了。英オックスフォード大博士号取得。早大教授、国際日本文化センター教授、学校法人静岡文化芸術大学学長を経て、2009年県知事に当選し、現在2期目。京都府出身。



ヤマハ発動機ジュビロ監督

きよ みや かつ ゆき  
**清宮 克幸氏**

1967年生まれ。早稲田大卒業後、サントリーでプレー。大阪茨田高時代には高校代表の主将を務めた。2001年現役引退後、早稲田大学ラグビー蹴球部監督に就任し、3度の大学日本一に輝く。06年サントリー監督を経て11年より現職。大阪府出身。



**感動もたらした奇跡的勝利**

澤木 ラグビーW杯2015は、日本代表の活躍で、私たちに大きな感動を与えてくれました。まずは、今大会の感想をお聞かせください。

**知事** 南アフリカ戦は素晴らしいゲームでした。W杯で過去2度の優勝を誇る世界の強豪を相手に一歩も引かない日本代表に心を動かされた方も多いと思います。そして最後のロスタイムに日本が引き分けではなく勝利を手にするために、キックではなくスクラムを選択し、トライを決めた。自分たちの力を信じて攻め抜くという気持ちが高得点に結びついたので。この気高い精神に感動しました。

澤木 知事は現地にも行かれませんでしたね。

**知事** 3位決定戦、決勝を観戦しました。決勝が行われたトゥイッケナムスタジアムでは8万人の観客と選手、審判が一体となって盛り上がった。この盛大な歓声と一体感がもたらすスタジアムの雰囲気を感じ動きました。また、スタジアムに行く前、ファンゾーンと呼ばれる公式のイベントスペースに立ち寄ったのですが、1万人もの人が入れる広大な空間で、パブリックビューイン

## ONE FOR ALL, ALL FOR ONE.

4年後に迫るW杯日本大会に向けた展望や今取り組むべき課題について、川勝平太知事、ヤマハ発動機ジュビロの清宮克幸監督と県ラグビーフットボール協会名誉会長の松井純静岡新聞社・静岡放送会長が語り合った。コーディネーターは澤木久雄SBSシニアプロデューサー。

### シズオカ・ウェイで感動の舞台づくりを

この鼎談は、平成27年11月27日付静岡新聞朝刊に掲載された記事の転載です。

グや関連イベントが開催されました。子どもから大人まで多くの方が来場し、こちらも非常に盛り上がりを見せておりました。

**清宮** 今回の代表戦については初戦で起こったことが全てで、これまで望んでいたことが全てでないまま。ラグビーはお互いのチームのバランスによって成り立っています。南ア戦の出来事も、あの舞台で、あの点差だったからこそ起きた現象なんです。もしもつと点差があれば、あのタイミングで南アはペナルティーゴールを選択しなかったでしょうし、それがなければ、日本の逆転トライも生まれませんでした。そこまで日本代表の実力が上がっていたのだと思います。

**松井** ラグビーの有名な言葉として「One for all, All for one」があります。今回の日本チームはまさにそれを体現していました。南ア戦はチームワークの勝利です。日本がロスタイムで、まさにチーム一体となってトライを取りに行つたあの結果が生まれたのです。非常に感動しました。子どもたちにラグビーを勧めたいという理由もそこにあります。初戦であの結果が出たことで、その後のテレビ中継の視聴率がうなぎ上りに



エコパスタジアム

豊かな自然に囲まれた小笠山総合運動公園内にあるスタジアムで、多目的競技場としては県内一の規模を誇る。最大収容人数は5万889人で、2019年大会が開催される12会場で、2番目の規模に当たる。2002年サッカーW杯では準々決勝「イングランドーブラジル」など3試合が開催された。



なったのも驚きました。ラグビーファンとしては、大変うれしい結果でしたね。

### ラグビー普及に全力挙げる

**澤木** いよいよ4年後、日本大会が行われます。エコパへの誘致には知事も大変ご尽力なさいましたね。

**知事** 日本大会開催が決まっただけから、誘致するのであれば県も動いた方がよいというアドバイスをいただき、すぐに発起人会を立ち上げました。スポーツを通じて県民のためになるならやるという姿勢が、今回の決定につながったと思っています。

**澤木** ラグビーに携わる人にとって、W杯とはどのような存在でしょうか。

**清宮** 一番大きな夢の舞台です。これまでその舞台に何人も日本人選手が立ちましたが、ほとんどが夢破れて帰ってきました。それが今回、自分たちで夢をつかんで帰ってきました。俺たちにもできるんだということ全国民に示せたのが最大の魅力だったのではないかと思います。また海外出身選手も一丸となって日本チームの勝利のために戦った姿を見て、それまで自分が



うに、自分はラグビーでワールドカップに出場する、または水泳、フィギュアスケート、サッカー。学問という道もあります。そういう世界に通じる道を静岡県は持っているんですよ、ということ、今回はラグビーを通じて徹底的にやっていきたいと思っています。

**清宮** W杯に来る人にとって、試合はツアーのほんの一部。W杯では2週間以上滞在する人が多く、試合のない日はゆっくりその国を楽しむという文化があります。ここで「おもてなし静岡」を発揮するアイデアが必要です。例えば、掛川や袋井市内の空いている駐車場全てに屋台を出して、4、5万人規模のお祭りを開くなど、静岡なら思い切ったことができるのではないかと思います。

**松井** 一番大切なのは、ホスピタリティーの精神が県民にどこまで浸透するかですね。チームの受け入れ自体はある程度うまくいくと思うのですが、海外のファンをどう受け入れるかは大きな課題だと思います。われわれもマスコミとして積極的にPRしていくつもりですが、一つ心配なのは言語の問題です。英語の使える学生たちをボランティア

などで活用するなどの対策も必要ではないかと思っています。

**知事** ホスピタリティーは相手を知ることから始まります。そのため、私は常々、高校の修学旅行で海外に行くように勧めています。若い頃から国際化を進めていかなければなりません。そして、そういう方たちが結果すれば、言語の問題はクリアできるのではないかと思っています。ただし、これは一過性では意味がありません。ラグビーのような国際的なスポーツが、グローバルな視点を持つきっかけになれば良いと思っています。

### 日本で悲願のベスト8進出を!

**澤木** 19年エコパ開催に期待することや抱負をそれぞれお聞かせください。

**松井** ぜひ、県民のみなさんには迫力あるラグビーの国際試合を楽しんでいただきたいと思っています。そしてどちらの国も応援して会場を盛り上げていただきたい。海外から来た方たちが日本に来てよかったと喜んでもらえる試合を期待しています。それからこのようにラグビーが盛り上がっていく中で、本県の高校チームが、花園で頑張ってくれる

「純血」にこだわっていたのが、ほんの些細なことだったということに気付きました。あの夢の舞台も高校ラグビーの予選も、実は相通じるところがあります。それは試合に向かう準備や気持ち、試合に勝った時の爽快感や達成感、ノーサイドに際しての気持ち。こうしたものはどれも共通です。全ての年齢層で感動を味わえるというのがラグビーの魅力だと思います。

**松井** 県のラグビーの現状ですが、平成11年と比べると、社会人チームは11から1に、クラブチームが11から6に、大学も6から4にいずれも減っています。何としても19年までにはラグビーをもっと普及させ、競技人口を増やさなければなりません。協会としてもラグビーを浸透させていくための環境づくりに取り組んでいます。なにより優れた指導者の育成は不可欠です。

**清宮** 実は私から川勝知事に提案し、来年度から磐田市で地域スポーツクラブを立ち上げ、高校生がスポーツに取り組める場を提供する仕組みをスタートさせることになりました。ラグビーでいえば、ヤマハOBやラグビー経験者が子どものコーチを務めます。さらにラ

ことも期待したいと思っています。

**清宮** 日本では12の開催都市がありますが、会場となるエコパスタジアムの設備を含め、静岡が一番良かったと、プレーヤーからもファンからも言ってもらえるようなチャレンジをしていきたいですね。今回、日本代表の戦い方は「ジャパン・ウェイ」と呼ばれ注目されましたが、4年後は「シズオカ・ウェイ」を根付かせましょう。ラグビーにはノーサイドというものがありません。試合が終わった後、対戦者同士が一緒に酒を酌み交わすというのがラグビーのいいところ。そういう環境を、静岡でも整えてあげたいですね。

**知事** 今回の代表チームが成し遂げたレガシーをしっかりと受け継いで、日本大会では必ず予選突破を果たしてもらいたい。そのためのチーム作りのヒントがヤマハ発動機ジュビロにあると思っています。清宮監督を中心に、この4年間でトップクラスのラグーマンを育てていただきたい。そしてラグビーは面白いという発信をしていきたいですね。今月トップリーグが始まりました。私もスタジアムに行くつもりです。ラグビーの楽しさを体で

グビー選手のセカンドキャリアも考え、優れた人材を学校教員に採用する制度づくりもお願しているところ。こうすれば、指導者の育成にもつながるのではないかと思います。

**知事** 子どもたちへの指導を通して、指導する側の能力も高まります。磐田市では市長やスポーツリーダーたちが、心を一つにして取り組むことになりました。県としては、問題点を洗い出しながら成功に導き、他地域にも広げていきたいと思っています。

### 地域のホスピタリティー醸成

**澤木** 4年後の大会は、静岡にとってもどのようなものとなるのでしょうか。

**知事** ラグビーの道は世界に通じます。日本ラグビーは今回、世界に通じました。これは万事において言えます。富士山は世界文化遺産、南アルプスはユネスコエコパーク、茶草場農法も世界農業遺産など、静岡県には世界クラスの資源が20以上もあります。では、こうした世界に通ずる地域である静岡県で生きている自分たちは何ができるのか。富士山に登る道がいくつもあるよ

感じ、多くの人にその魅力を知っていただきたいと思っています。



コーディネーター  
SBSシニアプロデューサー  
澤木 久雄

